



4月21日、内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）と経済産業省は、地域経済分析システム（RESAS（リーサス））の提供を開始しました。

※ RESAS: Regional Economy (and) Society Analyzing System

### 1 RESASについて

平成26年9月に、まち・ひと・しごと創生本部が設置され、同年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。

今後、地方公共団体が地域の特性を踏まえた地方版総合戦略を策定するに当たっては、地域の強み・弱みなどを踏まえることが重要であり、地方自治体が自らの産業構造や人口動態、観光の人の流れなどの現状・実態を正確に把握するとともに、データに基づく目標・KPI（重要業績評価指標）の設定、PDCAサイクルの確立等が求められています。

このような中、RESASは、地方版総合戦略における基本目標・KPIの設定、PDCAサイクルの確立等に寄与することを目的に作られた、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する“ビッグデータ”を集約し、可視化できるシステムです。

### 2 RESASの特徴について

RESASは、「産業マップ（※）」「観光マップ」「人口マップ」「自治体比較マップ」の4つのマップ（メニュー）で構成されています。

※「産業マップ」は、国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能な「限定メニュー」となっています。

今回は、「人口マップ」と「観光マップ」について、ご紹介します。

### 3 人口マップについて

「人口マップ」は、地域の人口について、過去の推移や将来の推計値を年次別に、自然増減・社会増減に分けて把握することができます。

例えば、図1は、南城市における社会増減の状況であり、どこの市町村から南城市に転入してきて、どこの市町村へ転出しているかが分かります。

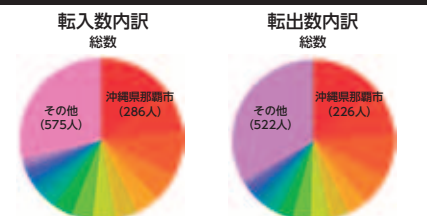


図1 南城市における社会増減 (2014年)

(図の補足)  
南城市への転入  
1位 那覇市(286人)、2位 南風原町(186人)、3位 与那原町(173人)  
南城市からの転出  
1位 那覇市(226人)、2位 与那原町(146人)、3位 南風原町(141人)

### 4 観光マップについて

「観光マップ」では、いつどこにどれだけの交流人口があるのか、どこの都道府県や市町村から来ているのかを把握することができます。

例えば、図2は、本部町における月別の滞在人口推移の状況となっており、平日・休日別に、人口がどれだけ滞在しているのが、分かります。



図2 本部町の滞在人口月別推移 (2014年)

(図の補足)  
本部町において、2月、8月、10月では、休日よりも平日の方が、多く人が滞在していることがわかります。

### 5 おわりに

今回、ご紹介した内容は、RESASのほんの一部の機能についてです。RESASは、取り出すデータやその見方によって、無限の活用方法があると考えています。

私も経済産業部では、RESASの相談窓口となるシステムマスターを配置し、今後、RESASの普及・活用支援に努めてまいります。